

当院透析患者における骨・ミネラル代謝の現況 ～治療効果改善への取組み～

長崎腎クリニック¹⁾、長崎腎病院²⁾

○井上隆光¹⁾、田中 健¹⁾、池田康平¹⁾、矢野利幸²⁾、高木伴幸²⁾、橋口純一郎¹⁾、
原田孝司²⁾、船越 哲²⁾

【背景】

「わが国の慢性透析療法の現況」と当院の現状を2010年時点で比較した結果、多くの血清学的因子で当院は全国の平均値を下回る事が判明した。

【目的】

今回我々臨床工学技士(以下:CE)が透析医療チームの一員として、骨・ミネラル代謝データ改善への取組みを報告する。

【対象・方法】

当院外来維持透析患者58名を対象とし、今回の比較で特にデータ不良であった骨・ミネラル代謝において、患者血清因子データの解析をCEが行い、カンファレンス等で啓発することで改善を試みた。

【結果】

血清リン値においては、有意差はなかったが平均値で6.22から5.98 mg/dlへ改善傾向を示し、透析効率Kt/Vでは1.25から1.42へ有意に改善した。

【考案】

治療効果改善のためには、CEも含めた医療チーム全体で取組み、知識向上や患者との信頼関係の構築が重要と考える。